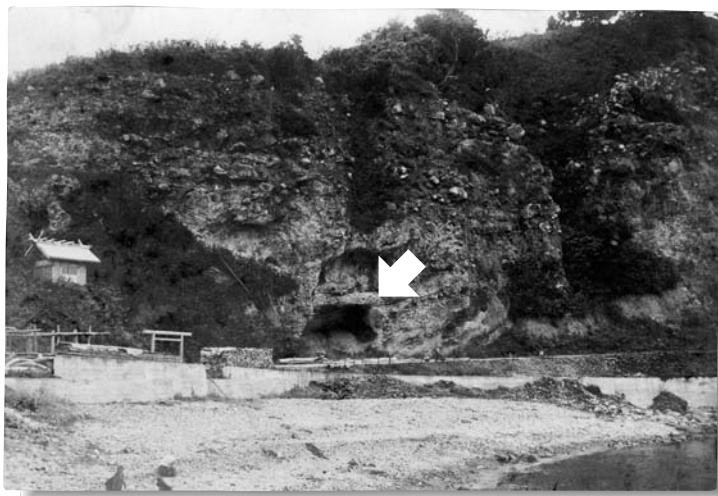


セピア色の写真

岡島洞窟全景
(矢印が洞窟)

セピアになった古い写真を見ました。所蔵者は札幌の牧野文子さんで、お父さんが当時、浜益の茂生で写真館を営んでいて、その時撮った写真と考えられます。中に洞窟と内部の地層、そこから出たらしい土器片の写真がありました。写っている風景や裏の

メモから、茂生の岡島洞窟遺跡の写真と分ります。

この遺跡は、昭和34年の調査でオホーツク文化が道央まで波及していたことが初めて確認された遺跡ですが、遺物や人骨などの発見で昭和初期にはその存在が広く知られていたようです。そして昭和7年と昭和11年早くも専門家が訪れて調査を行っています。調べて行

くと3枚の写真と同じネガから焼かれたものが昭和13年発行の学会誌に掲載されていました。このことから写真は、昭和11年7月に行われた杉山壽栄男の調査時のものと判明しました。実に今から70年以上前の写真でした。

写真のメモ、学会誌の記載から、写真のネガ、土器石器、骨、貝などはすべて東京に送られたことが分ります。しかし、その後これらが浜益に戻ってきたかどうか不明です。おそらく八幡一郎や直良信夫の鑑定のもの、杉山氏の手元(東京)にあったのではないかと考えられます。

不幸なことに、杉山氏の自宅と資料の収蔵庫は昭和20年4月の東京空襲で全焼し、それまで収集した数万点に及ぶ貴重な資料が失われています。おそらく岡島洞窟の写真も遺物も同じ運命をたどったのではないかと考えられます。ですから、今回の3枚の写真は唯一戦災を免れた

出土した土器の写真



写真のメモ

昭和11年の岡島洞窟調査の写真の可能性があり、貴重な資料です。

本文を書くにあたり牧野文子さん、河崎盟さん、宮城県東北歴史資料館にお世話になりました。

(石橋孝夫)

【参考文献】

杉山壽栄男「北海道石狩国浜益村岡島洞窟遺跡」昭和13年7月人類学雑誌第53巻7号東京人類学会

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館

☎62-3711

✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp